

【施設状況】

グループ名称	障害者福祉施設ほたるの里								
指定管理者名	社会福祉法人長野市社会事業協会					法人番号	5100005001689		
所管課	主	102000	障害福祉課	副					
構成施設	1415	障害者福祉施設ほたるの里							
施設分類	05	保健福祉・医療型		施設利用者圏域	02	広域施設	利用制適用区分	02	利用料金制
施設概要	作業室、作業室兼多目的室、静養室、更衣室、事務室兼相談室								
施設設置目的	障害者に対し、日常生活上の支援並びに創作的活動及び生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活能力の向上のために必要な支援等を行うことにより、障害者の福祉の増進を図る。								
基本方針等	平成30年度に就労移行支援事業から生活介護へ事業を移行した経過があり、今後はより重度の障害を持った人の施設利用を想定のうえで、支援体制の整備を図る。								
主な実施事業	生活介護事業								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	社会福祉法人長野市社会事業協会			指定回数	1 回	
指定期間	平成30年4月1日	～	令和3年3月31日	3年	管理運営開始日	平成30年4月1日
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)				3	

2 施設の有効活用

		利用区分等	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	対前年比	評価
施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	生活介護		人/日	-	11	12	13	108%	3
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
		(特記事項) ・利用状況は日平均 ・利用登録者数:16名(定員:20人)							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援法第5条第7項に規定する生活介護の実施に関する業務</li> <li>・施設及び設備の維持管理に関する業務</li> </ul>							
	自主事業								
サービス維持・向上の取組み(広報等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症研修、強度行動障がい支援者養成研修、口腔ケア研修、苦情対応システム研修などに参加した。また、グループホーム見学、養護学校見学を行い実地に活かした。家庭向けに通信を出し、行事報告と行事予定をお知らせした。</li> <li>・車両3台で、通所利用者への送迎サービスを実施した。(各方面を分担して送迎するため、一台追加した。)</li> </ul>							

3 利用者評価

		区分	内容	評価
利用者評価	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	聞き取り	4
		(2) 調査、会議等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日に当日通所した利用者全員を集めて「コーヒーの会」を開催。利用者が自由に発言できる機会として設けており、利用者から要望等を聴取する。</li> <li>・毎日、利用者個人との会話の機会を設ける(3分程度)ことで、利用者の要望、意向等を聴取する。</li> <li>・「連絡ノート」を利用者の保護者とやりとりすることで、利用者の体調や状態の変化等を保護者に伝える。</li> </ul>	
	(3) 調査、会議等の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者から聴取した要望は、施設で実施する事業に出来るだけ反映させるようにしている。また、要望の多かったことについては、事業や行事として実施していく。</li> <li>・利用者から、野菜を作りたい、水族館へ旅行に行きたい、えのき栽培をしたい、クッション材(ノバフォーム)を製作したい等の具体的な希望の提示があった。</li> </ul>		
	利用者からの評価・苦情等	(1) 良好とする評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあり、外出等は自粛をせざるを得なかったが、ケータリングサービス、テイクアウト等を利用し外食の気分を味わった。おやつのは利用から好評を得た。</li> <li>・買い物同行支援を行い、スクラッチアート等、利用者からの要望の物を購入し活動のメニューを増やした。利用者から好評を得た。</li> </ul>	
		(2) 苦情・改善等の要望事項	なし	
		対応措置	《対応措置》	

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和2年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和2年度決算		令和元年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料		指定管理料		雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料		行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入	515,000	その他収入	860,733	その他		その他		
	自立支援給付	29,177,000	自立支援給付	28,306,934	国庫支出金	20,725,293	国庫支出金	17,628,804	
	計	29,692,000	計	29,167,667	計	20,725,293	計	17,628,804	
支出	人件費	24,094,000	人件費	25,496,724	指定管理料		指定管理料		歳出
	設備管理費	120,000	設備管理費	91,050	委託料		委託料	99,000	
	備品購入費	0	備品購入費	0	需用費		需用費		
	修繕費	495,000	修繕費	216,600	役務費		役務費		
	光熱水費	500,000	光熱水費	453,543	使用料・賃借料		使用料・賃借料		
	事業費	1,301,000	事業費	1,983,238	修繕費		修繕費		
	事務経費	1,749,000	事務経費	1,923,584	工事請負費	29,008	工事請負費		
	本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費		
	その他		その他		その他		その他		
		扶助費		扶助費		扶助費	27,633,724	扶助費	
	計	28,259,000	計	30,164,739	計	27,662,732	計	23,604,072	
自主事業	収入		収入						
	支出		支出						
	自主事業損益	0	自主事業損益	0					
損益		1,433,000		-997,072	差引	-6,937,439		-5,975,268	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和2年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								84.5%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて☑で、「3」、「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☑	3
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 生活介護 10人(8)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	☑	3
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	☑	3
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	☑	3
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
セルフモニタリング等	2 備品はI種、II種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	☑	3
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか	☑	

6 危機管理体制

※ すべて☑で、「3」。1カ所でも空欄の場合は「1」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか		☑
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		☑
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか		☑
2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか				

7 地域連携

地域連携	評価
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p>	3
<p>協定内容・指定管理者提案</p>	
<p>追加された内容、未実施の内容及びその理由</p>	
<p>・松代東条18区の法人会員として登録されている。 ・地区で実施する(蛭川沿線)の草刈りに先だち、当施設隣接箇所(草刈り)を行っていることに対し、「足場を刈っていただき感謝する」として、地区から謝意が示されている。</p>	

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	3	6	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>基準値</p>
施設の有効活用	3	6	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	3	12	
危機管理体制	3	12	
地域連携	3	6	
合計得点		64	
評価理由	<p>・「4 事業収支」におけるマイナス決算は、平成30年度から就労支援事業から生活介護へ事業移行して3年目であるが、施設利用において定員割れにより利用率が低かったことが影響したものと考えられるが、前年度、全前年度より利用者増となっていて好転することが推測される。</p> <p>・事業移行後は従前より重度の障害を持った人が施設利用しているが、「3 利用者評価」の「利用者要望把握」については、利用者全員で集まって自由に発言する機会を設けるほか、毎日利用者個人との会話する機会を設けており、施設利用者が支援員に対して要望を伝えやすくするための機会を設けている等、施設独自の工夫が見られることから評価を「4」とした。・コロナウイルス感染症対策で、外出が出来ない代わりに、お弁当のテイクアウトや、おやつ会の開催等の工夫が利用者にも好評である点も利用者評価の項目において、評価できる。</p> <p>・限られた居室において、パーティションにより区分けすることで、強度行動障害の利用者に対し、個室化する工夫が見られた。</p>		
取組み・改善案等(施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	平成30年度から新たに生活介護事業所として開所した施設であり、特に地元地域で認識されていない。(以前の施設名で認識されている。)		市の行政地図情報の訂正(旧施設名のままであったため。)
次年度の目標・取組み等(施設所管課)	<p>・平成30年度に生活介護事業所として開所して3年目だが、施設利用者は定員割れとなったため、施設のPR、施設立地に伴う通所に係る困難等を含め、施設利用者の確保、利用率の増加を図るための方策と工夫は必要と考えられる。</p> <p>・重度の障害を持った利用者の、施設内でのゾーニング。(集団で活動できない利用者に対し、居室が狭く、個室対応ができない。)</p>		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・利用者一人ひとりの心境の状況に応じ、より自立的で安心した暮らしが出来るように日中活動のサービスを適切に提供している。
- ・利用者の個々のニーズに添った個別支援計画を策定し、利用者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立った支援に努めている。
- ・利用者や保護者のニーズに応え、送迎サービスを実施している。
- ・看護師を配置し、日々の体調管理や健康把握に努めている。
- ・個別のニーズや多様な障害特性に対応した支援が行えるように、研修会に参加し職員の資質向上に努めている。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・法人内のネットワーク環境を整え、情報を共有するとともに、関係機関と連携し、迅速な対応が出来るようにしている。
- ・会計ソフトを導入し、法人本部の管理のもと、適正な処理をするとともに、経費削減や業務の見直しをしている。
- ・職員間の連携をもつため、ホワイトボード等を活用し連絡ミスを防いでいる。

③ その他

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・令和2年度は、平均利用率が64.0%であった。元年度と比較すると改善の兆しは見えるが、定員割れは解消していない。利用者確保が最大の課題となっている。
- ・交通面等のアクセスに不便な点があり、送迎が必須となっているため、送迎体制の整備が課題となっている。  
(各地から来るため、一人一人に合わせると時間がかかる。職員が時間外勤務になることで手当てを支給するので、採算が合わない。)
- ・平成30年度から事業及び事業所名を変更したため、関係機関や地域に広報活動が必要である。  
(接点のある人に対しては、広報活動をしているが、全体的に知名度が低いため利用者が増えない。)
- ・障がい者の特性に合わせて間仕切りを作り個室風の空間を4部屋用意したが、現状2部屋不足している。
- ・個室がなく、担当者会議等は公民館を借用している。施設が全体的に狭く、利用者の特性に合わせて大部屋を個室として利用しているため、活動スペースが狭い。今後、個室を新たに作りたいと考えている。
- ・屋根の塗装が剥離している。
- ・駐車場のフェンスが壊れている。

(3) 総合評価 評価基準  
 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり  
 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者  
自己総合評価

C

① 評価理由

- ・平均利用率が64.0%と定員割れではあるが、重度の行動障がい者を5人受入れ、個別支援に重きをおいている。

② 次年度以降の取組み

- ・養護学校からの実習生の受入れや関係機関との連携を図り、新規利用者の確保に努める。
- ・利用者やご家族のニーズに寄り添い、安心して1日過ごしていただけるように日々の支援を重ねていく。
- ・利用者の要望に応じた作業の提供や余暇活動、生活支援等、利用者の楽しみや健康管理を含めたサービス提供を行っていく。
- ・多様な障害特性や個別のニーズに応えられるよう、更に職員の資質向上を図る。